

## 今日の説教のポイント <創世記1章26-31節>

### ①「人を我々に似せて造ろう」とはどういう意味なのか？

26節からはいよいよ人間の創造についてです。まず目を引くのは、「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう」と言われている点です。「我々」とはどういう意味でしょうか？！元のヘブル語では、これは強い決断を示す複数形で、複数の神様がおられるということではないのです。神様は人間を造るについては、他の被造物とは違い、並々ならぬ決意を持って造られたということを表しているのです。それは、「神にかたどって人を造る」(27)と言われ、他の被造物を「支配させよう」(26、28)と言われている所にも現れています。

### ②私たちの何が神様と似ているのでしょうか？

「神様にかたどって」「神様に似ている」と聞くと、私たちはすぐに外見を想像してしまいます。しかしここでは、神様から「他の生物を支配せよ」と命じられるのを聞いてそれが分かり、意志を持ってそれを実行に移せるほどに、むしろ内面的に、「神様にかたどって」「神様に似ている」存在として人間が造られたということを考えなくてはなりません。

### ③「すべてを支配せよ」と言われているのに引っかかる？

「支配せよ」という言葉に引っかかりを覚えるかもしれません。しかしそれは、弱い者、貧しい者から搾取する近代の王をイメージするからであり、もっと昔、王は自分の民を愛し、大事にしていたのです。すなわち、この箇所では、「支配せよ」とは、人間が他の動物や植物のことを見守り、すべての被造物が神様によって造られたことを喜び、感謝できるように管理せよ、というような意味だったのです。

人間はいつの間にか、そのような姿から離れていき、自然を自分のしたいように改変さえして、まさに悪い意味で「支配する」ようになりました。そして今ついに、その自然、つまり人間以外の他の被造物からのうめきが神様の耳にも入り、原発事故のような出来事が起こり出していると言えるのではないのでしょうか。私たちはもう一度、神様にかたどって造られた存在に戻らなくてはならないのだと思います。